

疱瘡人入申小屋并看病人仕様御請申上候覚

一当郡中村々ニ疱瘡人御座候節入申小屋御田畑之構ニ罷成不申所を見立、忝人前ニ式間四方之積り長小屋ニ仕屋根壁等迄念入可申候、尤一村ニ而拾五人式拾人相煩申候迄ハ山小屋ニ入、其上大勢ニ罷成候ハ、御断申上御下知之上、村家ニ召置看病仕外のものハ村端ニ除可申候、縦一村ニ而五人三人相煩山小屋ニ入申候共、近所之医師ニ掛随分養生可仕候、輕疱瘡ニ而御座候共病人忝人ニ忝人宛之看病人付置可申候

一疱瘡病人有之節、小屋其外扶持米医師掛候節も其村之庄屋ハ小屋へ通申儀難成ニ而、疱瘡致候もの之内ニ三人適候肝煎候もの宰領申付置、疱瘡人一件諸事指問申儀御座候節ハ宰領人方直ニ御役所へ御断可申上候事

一疱瘡人大勢ニ罷成扶持方医師賄事、其村ニ而成兼候節ハ相窺御下知次第ニ可仕候事

一疱瘡小屋屋根壁ハ茅簾ニ而困可申候、尤床かき畳敷諸事丈夫ニ可仕候様被仰渡候

右之通少茂違背仕間敷、万一右之趣違背之段及御間被遊候ハ、我々何分之越度も可被仰付候、以上

志岐組大庄屋 加兵衛

井手組大庄屋 市兵衛

御領組大庄屋 五郎左衛門

本戸組大庄屋 重右衛門

栖本組大庄屋 儀右衛門

大矢野組大庄屋 八右衛門

砥岐組大庄屋 五郎右衛門

久玉組大庄屋 浅左衛門

一町田組大庄屋 市左衛門

大江組大庄屋 半左衛門

宝永六年丑十月

富岡

御役所